

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	イ	21
問二	②	
	エ	22
	⑥	
	イ	23
問三	i	
	オ	24
	ii	
	エ	25
	iii	
	ア	26

問四	合	
	唱	
	ク	
	ラ	
	ブ	
	に	
	入	27
問五	ア	28

問六	お	
	遊	
	び	
	の	
	合	
	唱	
	団	29
問七	ウ	30
問八	ウ	31
問九	ア	
	エ	32

問十			
	ん	感	合
	は	じ	唱
	楽	て	ク
	し	い	ラ
	そ	な	ブ
	う	い	で
	に	自	歌
	歌	分	う
	っ	と	こ
	て	ち	と
	い	が	を
	る	い	楽
	か	、	し
	ら	朔	い
	。	く	と

2

問一	い	
	く	39
	つ	
	も	40
	の	37
問二	ア	
	イ	
	ウ	(各2点)
	エ	
	オ	38

問三	1	
	ウ	
	2	39
	ア	
	3	40
	エ	
問四	イ	41
問五	④	42
	天	
	然	(各2点)
	⑤	
	人	
	エ	43

(配点)
 ①〔問二〕各3点、〔問三〕各2点、
 〔問十〕7点、他各5点
 ②〔問三〕各2点、他各5点
 ③④⑤各2点 } 計150点

		5	4	3		
⑥	改築	①	①	①	問九	問六
		尊敬	苦痛	あし	ウ	エ
65		60	55	50	48	44
⑦	博識	②	②	②	問十	問七
		裁断	原因	いた	ウ	1
66		61	56	51		45
⑧	潔白	③	③	③		つ
		歴戦	支出	いと		の
67		62	57	52		細
⑨	除	④	④	④		胞
		推測	消費	ひけ		45
68		63	58	53		2
⑩	留	⑤	⑤	⑤		ウ
		均整	保守	はめ		46
69		64	59	54		問八
						大
						き
						な
						変
						化
						47

【解説】

1 額賀滯の『ラベンダーとソプラノ』（岩崎書店）から出題しました。

全国合唱コンクール常連の小学校で合唱クラブに所属する小栗真子が主人公です。前の年に全国合唱コンクールで金賞をのがした合唱クラブでは、顧問の長谷川先生やソプラノパートのリーダー穂乃花（真子の友人）などが各メンバーに厳しい姿勢で臨み、ギスギスした雰囲気の中での練習が続いています。そんな中、学校の保健室で出会った一学年下の柚原朔にさそわれた真子は、朔の参加している「半地下合唱団」の活動場所に行くことになり、そこで初めて朔の歌声を聞きます。本文は、それに続く場面です。

問一 B1 理由 比較

——線①の直前で真子は「気がついたら口をあんぐりと開け」ています。また、この後に絶賛する内容が続いていることから、真子は朔の歌声の素晴らしさに感動していることがわかります。以上のことから、イが正解となります。ア「予想していた」、エ「プロの歌手になれるだろうと思つた」がそれぞれ誤っています。また、ウは書かれている内容自体は正しいですが、真子が朔の歌声に感動したことに触れられていません。

問二 A2 知識 関係づけ

——語句の意味を答える問題です。複数意味がある言葉についてはどれが適切か考える必要がありますが、原則として辞書の意味から外れたものは答えになりません。それらしく書か

れているものの本来の辞書的な意味から外れている選択肢に注意しましょう。

② 「ささやか」はひかえめで目立たない様子を表します。だれかに贈り物をするときなどに、謙遜の意味を込めて「ささやかなものですが、どうぞお受け取り下さい」などと言うことがあります。

⑥ 「口実」は責任をのがれたり、相手に言いがかりをつけたりするためのきっかけになることを指す言葉です。

問三 B1 関係づけ

——適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 「彼方の光」という歌をカッコいいと思つた朔は、歌だけでなくピアノの練習もした、と言っています。本来なら歌だけ練習すればいいはずですが、よりいい演奏をするためにピアノも練習したわけです。したがって、オ「わざわざ」が入ります。

ii 藤野先輩は、初対面の真子が上下関係を感じさせるような、礼儀正しい言葉づかいをしていることを受けて、真子とつながりがあるであろう合唱部の人とは仲が悪いから自分のことをそんなに先輩扱いしなくてもいいよ、と声をかけています。したがって、エ「ヘコヘコ」が入ります。直前で藤野先輩の「へえ、合唱クラブなんだ」という発言に対して「はい、来年は常花中です」とはきはき答えていることから、イ「おどおど」はあてはまりません。

iii 朔の目が自分に向いていることを真子が強く意識していることがポイントです。その目の光、鋭さは商店街の黄ばんだ照明の中でも失われていません。したがって、ア「キラキラ」が入ります。

問四 B1 具体化 関係つけ

真子が言いかけた言葉は、藤野先輩と魚住さんの登場でいったん宙に浮いてしまいます。ただし、そのことについてずつと気になっていた真子は、——線⑥の四行前の場面で改めて聞き直しています。傍線部近辺で解答に必要な内容が見つからない場合は、やみくもに読み進めるのではなくどのような場面で立ち止まればよいか整理したうえで、自分が何を探しているのか意識して読み進めましょう。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 関係つけ

④の直前に「再びわたしを見る」とあることから、最初に藤野先輩が真子を見た部分に注目しましょう。④の十行前に「洞窟に響くような低い声と、耳がくつきりと見えるショートカットが、ちよつとだけ冷たい印象を与えた」とあります。この「冷たい印象」から、アが正解となります。

問六 B1 置換

今の真子にとって合唱とは厳しい緊張感の中で頑張っている歌うものであって、半地下合唱団のようにゆるく活動するものだというイメージはありません。真子が半地下合唱団に對して「ゆるい」「甘い」などのイメージをもとに表現して

いる部分を探しながら読むこととなります。——線⑩の八行後にある「お遊びの合唱団」がこれに合っています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 B1 具体化 比較

本文冒頭で朔は真子を感じさせるような歌声を披露しており、朔本人も自分のことを「才能がある」と表現しています。これについて真子は「自分で自分のこと、才能があるって言うんだ……」と感じながらも、次の行では「でも、あの歌声を一度聞いたら、納得してしまう」とも考えています。したがって、ウが正解となります。ア「自分も胸を張れるほどの実力を身につけるべきだ」、イ「不満を覚えた」、エ「何としても合唱クラブに入ってほしい」がそれぞれ誤っています。

問八 B1 具体化 比較

——線⑧の三行後で、真子は「朔くんが怒ったのも、よくわかった」と感じています。これは「それって、楽しいの?」という直前の真子の言葉によって引き起こされた感情です。以上のことから、ウが正解となります。選択肢の文末にある心情表現はどれもマイナスのものですから、ここだけでは決着はつきません。その理由となる内容や細かい表現にも注目しながら正解を検討しましょう。ア「合唱クラブに引き入れようとしている」、イ「必死に成功させようとしている」、エ「半地下合唱団の活動を否定する」がそれぞれ誤っています。

問九 B2 具体化 比較

朔の発言を聞いた後の真子の様子をていねいに読み取り、選

扱肢の内容と比べていきましよう。——線⑨直後に、「もったいない。そう思うのと同じくらい強さで『うらやましい』と思った。」と書かれていることから、「もったいない」に対応しているア、今の合唱クラブと比較しているエが正解となります。イ「朔くんたちにはかなわないだろうと悲観している」、ウ「いかに自分勝手に価値のないものだったか」、オ「どうにか解消しなくてはいけないとあせっている」がそれぞれ誤っています。

問十 B2 理由 推論

真子が朔くんをうらやましく感じているのはなぜか、という理由を説明する問題です。——線⑩の八行後で「わたしには合唱クラブの練習がある」と言っているように、真子はあくまで合唱クラブで歌うことを第一に考えていると思われる。ただし、その合唱クラブでの練習をしんどいと感じ、歌を楽しめていないことは事実です。歌うことに関して、真子の置かれたマイナスの状況（歌を楽しめていない）と朔くんのプラスの状況（目標にしばらく歌を楽しんでいる）を対比する形で書きましよう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

2 稲垣栄洋『生物に学ぶ敗者の進化論』（PHP研究所）から出題しました。

単細胞生物がどのような経緯で多細胞生物へと進化して

いったか、また全球凍結など苛酷な逆境をいかに乗り越えてきたかについて述べた文章です。

問一 B1 具体化 関係づけ

多細胞生物の持つ特徴について説明した文の空らん適切な言葉を書きぬいて入れる問題です。要求に合わせて、まずは「多細胞生物には○○という特徴がある」「△△という特徴を持つのが多細胞生物である」という表現を想定し、それと似たような内容が書かれている部分もふくめて本文中を探していきましよう。多細胞生物の特徴を説明している部分は本文中に複数ありますが、字数の条件や空欄前後とのつながりを考えると、——線⑥の三行前にある「いくつもの細胞が連携して一つの生命活動を行う（多細胞生物）」という部分がふさわしいことがわかります。

問二 B2 具体化 比較

生物が群れることのメリットは、——線②の五行後にある「群れることには、身を守る上でメリットがある」以降にまとめて書かれています。《1》をふくむ文に「〜メリット『も』ある」と書かれているように、メリットは複数書かれています。過不足なく選べるように、すべての選択肢をきちんと検討して答えを出していきましよう。「身を守る」「天敵に対して警戒する」「天敵に襲われた場合も自分が逃げ切れる可能性が高まる」の三点が書かれていることから、イ・エ・オが正解となります。ア「天敵にも負けない攻撃力」、ウ「どの一頭を襲うか迷ってしまう」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 関係つけ

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。前後の内容どうしのつながりに着目し、接続詞そのものの働きと合わせ、てふさわしいものを選びましょう。

《1》の直後には、群れることの二つ目のメリットが書かれています。これは、「リスクが減るといふメリットもある」という表現からわかります。したがって、並列を表すウ「また」が入ります。

《2》の直後には、寄り集まった細胞がやがて役割分担を果たすようになる、ということが書かれています。これに対して直前には、「群体」という、ただ寄り集まっただけの状態が示されています。前後で反対の内容が書かれていますから、ア「しかし」が入ります。

《3》の直後では「ミドリムシやゾウリムシ」という単細胞生物が紹介されています。直前に「単細胞生物のまま、この地球に暮らしている生物もたくさんいる」と書かれていることから、ここから具体例が始まることがわかります。したがって、エ「たとえば」が入ります。

問四 A2 知識

イワシが何万匹という大きな群れで動く様子が「もはや一つの生物と言っているように思える」と書かれています。これと正反対の状況とは「ただたくさん集まっているだけで統率の取れていない集団」を指す言葉だということです。

たがって、イ「烏合の衆」が当てはまります。

問五 B1 知識 関係つけ

④の「スポンジ」は、「スポンジ・ボブ」の主人公である黄色いスポンジのことで、日本語では「海綿」と呼ばれる柔らかな構造を持つもので、自然界に存在しているものです。これに対して⑤の「スポンジ」とは、「合成樹脂」などで「作られた」とあることからわかるように、自然界にないものを人間が新たに作り出したものです。この関係から、④に「天然」、⑤に「人工」という対義語の組が入ります。

問六 B1 具体化 比較

線⑥をふくむ文を先頭から読むと、「いくつかの生命が役割分担をしながら協力をした方が得になる」という表現が見わかります。役割分担については——線⑥の十一行前から説明されています。この部分の内容と選択肢を照らし合わせると、エが正解であることがわかります。ア「本来なら自分で行わなければならないような役割」、イ「自分の得意な役割に専念する」、ウ「それぞれの能力を競い合っている」という「バ」がそれぞれ誤っています。

問七

1 B1 理由 関係つけ

「単細胞！」が悪口になるのは、「単細胞生物」のマイナスに見える点と、単純で物事の理解が浅い様子が重なっているように感じられるからです。そこで「単細胞生物」に

ついで説明した部分を探すと、本文二行目に「単細胞生物」というのは、一つの細胞からなる生物のことである」という表現が見つかります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 B1 具体化 比較

筆者の単細胞生物に関する評価が書かれている部分は、《3》の三行前「しかし、である」から始まっています。この部分と選択肢を照らし合わせて正誤を検討していきましょう。——線⑦の三行前にある「生きるだけであれば、細胞一つで十分」から、ウが正解となります。ア「生きるうえで不利に働く」、イ「一切必要なく」、エ「単細胞生物の方が高度」がそれぞれ誤っています。

問八 B1 具体化 関係づけ

多細胞生物の出現につながったと筆者が考えている内容を答える問題です。本文をやみくもに探すのではなく、「○○が多細胞生物の出現につながりました」「多細胞生物が出現する前には△△がありました」などの表現を想定して探しましょう。本文の最後から二行目に「大きな変化と過酷な環境が生命を著しく進化した」とあり、これが多細胞生物の出現のことを指しています。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 B1 関係づけ

ぬけている文をもとの場所にもどす問題です。指示語や接続語、キーワードに注目して、ぬけている文と内容的に近い

内容が書かれている部分を探しましょう。また、実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。この文の場合、「細胞」「分裂」「集合体」というキーワードをもとに、「ア」「エ」の四か所を検討しましょう。

問十 B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。選択肢の内容が本文のどの部分と対応しているかを考え、実際に本文にもどって確認しましょう。ウは《2》の二行前から始まる部分の内容と合っています。ア「他の生物との共生を必要としない」、イ「他の細胞を守ることを好む」、エ「多細胞生物は環境に適応できず」がそれぞれ誤っています。

③ A1 知識

慣用句の問題です。慣用句とは、二つ以上の言葉が常に一定の結びつき方をすることで特定の意味を持つようになった表現のことです。元の言葉の文字通りの意味からは、離れた意味を持つ場合があるので注意しましょう。

④ A1 知識

①～⑤の語について、対義語を語群から選んで漢字に書き直す問題です。音だけで覚えるのではなく、使われる漢字や使われる文脈も合わせて覚えましょう。